

研究室紹介 (五十音順 所在地・連絡先等は2012年5月現在)

● 教員スタッフ ★ 所在地 ♡ ホームページアドレス(<http://>は省略) ◆ 連絡先メールアドレス(担当)

おもな研究分野  形態・系統  遺伝  社会生態  心理・認知  脳神経

大阪大学大学院生命機能研究科 生命機能専攻 脳神経工学講座 認知脳科学研究室



視覚の脳内メカニズムの解明から、脳と心の関係を問う

●教授 藤田一郎 ●准教授 田村弘 ●助教 米島宏幸、特任助教 池添貢司

霊長類の優れた視覚能力を支える脳内機構を探り、脳という生物学的実体から「見える」という心のできごとが生まれる過程の理解を目指す。単一または多数の神経細胞の活動の電気的記録、光学イメージング、fMRIなどの非侵襲脳機能イメージング、理論モデル構築、心理物理実験、神経解剖学、分子生物学といった多様な手法を用いる。

★〒560-8531 豊中市待兼山1-3

♡ www.2.bpe.es.osaka-u.ac.jp/ ◆ fujita@fbs.osaka-u.ac.jp (藤田)

大阪大学大学院人間科学研究科 人間科学専攻 行動生態学講座 生物人類学研究分野



機能形態学をツールとして霊長類行動のメカニズムを探る

●教授 熊倉博雄 ●准教授 中野良彦 ●助教 日暮泰男

脳や筋など、霊長類の軟部組織の環境適応に関する研究によって、ヒトの由来に迫ることを主なテーマとしている。形態学的構造の意味を知るための機能実験も重視している。一貫して追求しているのは、ロコモーションの解析と形態学的機構の関連である。近年は、ヒト特異的な運動に関する応用人類学的解析も始めている。

★〒565-0871 吹田市山田丘1-2

♡ morph.hus.osaka-u.ac.jp/index.html ◆ kumakura@hus.osaka-u.ac.jp (熊倉)

大阪大学大学院人間科学研究科 人間科学専攻 行動生態学講座 比較行動学研究分野



動物を見てヒトを知る

●教授 中道正之 ●講師 山田一憲

私たちの研究室では、岡山県真庭市の神庭の濁の餌付け二ホンザル集団の個体識別を50年余にわたり継続し、この期間に生まれたすべての個体の母系血縁系統を把握している。この集団の他に、嵐山(京都)や淡路島などの餌付け二ホンザル集団や動物園で暮らす野生動物の行動観察を行い、発達、母子関係、社会などの研究を進めている。

★〒565-0871 吹田市山田丘1-2

♡ ethology.hus.osaka-u.ac.jp/research.html ◆ yamada@hus.osaka-u.ac.jp (山田)

京都大学大学院文学研究科 行動文化学専攻 心理学専修 (比較認知科学研究室)



心の進化と多様性を動物の心の動きを分析して明らかにする!

●教授 藤田和生

比較認知的科学的視点から、ヒト以外の動物の心の動きを行動実験や行動観察を通じて分析し、心の多様性とその進化を実証的に明らかにする。色や形の知覚、錯視、記憶、思考、欺きと協力、意識と内省、感情などを分析している。研究対象はフサオマキザル、リスザルの他、デグー、ハムスター、ハト、ニワトリ、イヌ、ネコ、ウマ等である。

★〒606-8501 京都市左京区吉田本町

♡ www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/fujita/ ◆ kfujita@bun.kyoto-u.ac.jp (藤田)

京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 動物学系人類学大講座 自然人類学分科



化石類人猿の進化と人類の起源を追究する

●教授 中務真人 ●准教授 國松豊

アフリカを主なフィールドとして化石発掘調査を行い、現人類人猿と人類の進化過程を明らかにする研究を進めている。化石研究以外に、現生霊長類の比較解剖学・機能形態学、世界各地で発掘された古人骨を対象とした考古学的研究も行っている。

★〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

♡ anthro.zool.kyoto-u.ac.jp/ ◆ jim@anthro.zool.kyoto-u.ac.jp (中務)

京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 動物学系人類学大講座 人類進化論分科



霊長類の行動観察を通して、人類進化の謎に迫る！

●教授 山極寿一 ●准教授 中川尚史 ●助教 井上英治

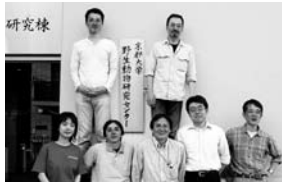
行動観察を主としたフィールドワークの手法を中心に、分子生態学的な手法も用いて、生物としてのヒトの進化を見据えながら、霊長類の生態、行動、社会に関する研究を進めている。現在の主な対象種は、ニシゴリラ、ヒガシゴリラ、チンパンジー、オランウータン、マンドリル、日本各地のニホンザルである。

★〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

❖jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/index.php ◆nakagawa@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp (中川)

京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻

霊長類学・野生動物系 野生動物分科〈京都大学野生動物研究センター〉



熱帯から南極まで、海中から山岳までフィールドワークする！

●教授 幸島司郎、伊谷原一、村山美穂 ●准教授 杉浦秀樹、田中正之、中村美知夫

●特任准教授 中村美穂、特任助教 森阪匡通、藤澤道子、森村成樹、齋藤亜矢

フィールドワークからラボワークまで、霊長類はもちろんさまざまな環境に生息する野生動物を対象に、生態、行動、社会、認知、遺伝子などの研究を行っている。国内3か所の研究拠点に加え、アフリカ、アジア、南米にも研究拠点を有する。また、「動物園は自然への窓」をキャッチフレーズに、動物園・水族館とも研究連携を推進している。❖www.wrc.kyoto-u.ac.jp/ (伊谷)

★〒606-8203 京都市左京区田中開田町2-24 京都大学野生動物研究センター ◆gidani@wrc.kyoto-u.ac.jp

霊長類学・野生動物系 行動神経研究部門 高次脳機能分科〈京都大学霊長類研究所〉



ヒトやザルの認知機能や社会行動の神経機序を明らかにする

●教授 中村克樹 ●准教授 宮地重弘 ●助教 脇田真清

認識や記憶といった認知機能や、情動行動、養育行動、コミュニケーションといった社会行動を、神経生理学的・神経解剖学的・神経薬理学的・実験心理学的手法さらに脳機能イメージング等を用いて研究している。現在の主な対象種は、ヒト、マカクザル(ニホンザルやアカゲザル)、コモンマーモセット、フサオマキザルである。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/cognitive_neuroscience/index.html ◆katsuki@pri.kyoto-u.ac.jp (中村)

霊長類学・野生動物系 行動神経研究部門 思考言語分科〈京都大学霊長類研究所〉



進化の隣人チンパンジーを通して人のこころの起源を探る

●教授 松沢哲郎 ●准教授 友永雅己 ●助教 林美里

主として、チンパンジーを研究のパートナーとして、飼育下から野生まで、個から集団まで、物理的知性から社会的知性まで、初期発達から生涯発達まで、多様な視点で研究を進めている。チンパンジー以外にもボノボ、オランウータン、テナガザル、フサオマキザル、ヒト、イルカなども研究対象だ。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖www.pri.kyoto-u.ac.jp/koudou-shinkei/shikou/indexj.html ◆tomonaga@pri.kyoto-u.ac.jp (友永)

霊長類学・野生動物系 行動神経研究部門 認知学習分科〈京都大学霊長類研究所〉



行動と脳の両面からヒトのこころの成り立ちを解き明かす

●教授 正高信男 ●准教授 後藤幸織 ●助教 香田啓貴

おもに、ヒトを含む霊長類を対象として、さまざまな心理現象を解き明かすため、脳と行動の両面からアプローチしている。野外観察から実験室における心理・行動実験、各種脳機能計測法を用いた認知神経科学実験を行っている。発達障害児への療育支援法の開発研究など、社会に還元できるテーマに対して積極的に推進している。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖www.pri.kyoto-u.ac.jp/koudou-shinkei/minchi/index.html ◆masataka.nobuo.7r@kyoto-u.ac.jp (正高)



霊長類の行動、生態、社会。その進化的軌跡とメカニズムを探索

●教授 古市剛史 ●准教授 Michael A. Huffman ●助教 辻大和

霊長類の社会を構成する行動、生態、そして社会そのものの構造の進化の解明は、複雑な進化をとげた霊長類各種の過去と今を理解し、ヒトの将来を見渡すことにもつながる。アフリカのボノボとチンパンジー、アジアのオナガザル類を主な対象とし、行動観察、ホルモン分析、遺伝子解析などさまざまな手法を駆使して多角的に研究を進める。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/shakai-seitai/shakai-shinka/index.html ◆ furuichia@pri.kyoto-u.ac.jp (古市)



野生霊長類の生態研究から、生息地での保全をめざす!

●教授 湯本貴和 ●准教授 半谷吾郎 ●助教 橋本千絵

霊長類の採食生態・行動生態を中心に、霊長類群集と森林構造や果実生産、霊長類が果たす生態系機能などの研究を通して、どのように野生生物と人間社会とが折り合いをつけていくのかを考えていく。現在のおもな対象は、ニホンザル、チンパンジー、ボノボ、オランウータン、レッドリーフモンキー、ブタオザル、グエノン類である。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/shakai-seitai/ecolcons/index.html ◆ yumoto.takakazu.6w@kyoto-u.ac.jp (湯本)



化石を見れば、なーんでもわかる?

●教授 高井正成 ●准教授 西村剛 ●助教 江木直子

霊長類の進化について、主に古生物学や機能形態学的手法を用いて研究しています。ミャンマー、中国、台湾など東南・東アジア地域で発掘調査を継続する一方で、国内外の博物館で現生種や化石標本の観察・計測をしています。最近では標本の外部形態の解析だけでなく、X線CTを用いて内部構造の解析をして、コンピュータ上で元の復元なども行っています。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/shinka/keitou/index.html ◆ takai@pri.kyoto-u.ac.jp (高井)



ゲノム情報の収集・解析・試作。目指すはゲノム進化の機構

●教授 古賀章彦 ●准教授 川本芳 ●助教 田中洋之

1塩基対から染色体の構造まで、様々な変異を扱っている。主な研究対象は、トランスポゾン(ヒト、チンパンジー、テナガザル)、反復配列の増減(テナガザル)、染色体の分断や融合(ヨザル)、集団構造(ニホンザル等のマカク)、系統関係(マカク、テナガザル)、遺伝管理(ニホンザル)。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/shinka/genome-diversity/index.html ◆ koga.akihiko.5n@kyoto-u.ac.jp (古賀)



霊長類の身体形態の多様性と機能適応の解明により霊長類進化を探索

●教授 濱田穰 ●准教授 平崎鋭矢 ●助教 毛利俊雄

マカク類とチンパンジーを対象に、実験室とフィールドで以下のテーマに取り組んでいる。①身体形態の多様性の分析による進化地理学、②受精から死までの成長と加齢、特に骨格成熟や骨格の老化(形態・骨密度・関節症)、③霊長類の示すさまざまな位置的行動の機能形態学研究による、ヒトの生活史と直立二足歩行の進化の解明。

★〒484-8506 愛知県犬山市犬山官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/shinka/keитай/index.htm ◆ hamada.yuzuru.2a@kyoto-u.ac.jp (濱田)

霊長類学・野生動物学 分子生理研究部門 ゲノム進化分科 (京都大学霊長類研究所)



ゲノムを基盤に霊長類の進化を解明する

●教授 平井啓久 ●准教授 今井啓雄 ●助教 郷康広

霊長類の進化に対する遺伝子・ゲノム基盤について、感覚系(視覚・嗅覚・味覚)や脳機能に注目して総合的に研究している。霊長類の組織を用いた遺伝子発現解析や、遺伝子型を考慮した行動実験や生態調査などのユニークな手法を活用して、大学院生も含めた各個人の自主性を尊重した研究を推進している。

★〒464-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/molecular_biology/index.html ◆ imai.hiroo.5m@kyoto-u.ac.jp (今井)

霊長類学・野生動物学 分子生理研究部門 統合脳システム分科 (京都大学霊長類研究所)



先端のアプローチにより脳の構造基盤と動作原理の謎に迫る!

●教授 高田昌彦 ●准教授 大石高生 ●助教 松本正幸 ●特定助教 井上謙一

神経解剖学的、神経生理学的、行動学的手法とともに、ウイルスベクターを用いた最先端の遺伝子導入技術を駆使して、脳を構成する複雑かつ精緻な神経ネットワークの構築と機能を探索し、運動機能や認知機能など、行動の発現と制御に関与する多様な脳機能の統合的理解と、精神・神経疾患の病態解明および新規治療法開発を目指している。

★〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所

❖ www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/systems_neuroscience/index.html ◆ takada@pri.kyoto-u.ac.jp (高田)

総合研究大学院大学生命科学研究科 生理科学専攻 生体情報研究系 感覚認知情報研究部門 (生理学研究所)



視覚の脳機構の解明を通して、ヒトと世界の関わりを理解する

●教授 小松英彦 ●助教 郷田直一、横井功

網膜に映った外界の像は二次元なのに三次元の形が分かる。物を見ただけで素材の種類や触った感じが分かる。このように視覚系は解が一意に決まらない逆問題をうまく解いて、外界の事物を推測している。そのような視覚機能の秘密をニホンザル大脳視覚野からのニューロン活動記録と機能的fMRIによって解き明かすための研究を進めている。

★〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町西郷中38 生理学研究所

❖ www.nips.ac.jp/scinfo/ ◆ komatsu@nips.ac.jp (小松)

玉川大学大学院脳情報研究科 脳情報専攻 システム神経科学部門 坂上研究室 (脳科学研究所脳科学研究センター)



心をつくる仕組みの解明をめざす!

●教授 坂上雅道

心理学的手法と脳科学的手法を組み合わせ、判断や思考の基礎を明らかにする研究を行っている。研究手段は、マカクザルの脳活動の電気生理学的解析とfMRIを使った脳機能イメージング。意思決定に関わる基礎的脳機能の解明が、ヒトの複雑な社会的行動の理解にどうつながっていくのか、経済学者や哲学者と共同研究・討論もしている。

★〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 脳科学研究所脳科学研究センター

❖ www.tamagawa.ac.jp/sisetu/gakujutu/brain/sakagami/ ◆ sakagami@lab.tamagawa.ac.jp (坂上)

東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 機能生命科学大講座 人類進化システム分野



視覚とケミカルセンスからみた霊長類野生集団の適応進化

●教授 河村正二

霊長類、特に新世界ザル類の色覚の種内・種間多様性をフィールド調査により野生集団で明らかにしてきた。光センサーであるオプシンの遺伝的多様性を調べ、採食行動との関連について検討する中で、嗅覚や味覚などのケミカルセンスの重要性にも目を向け始めた。これらのセンサー遺伝子の多様性やシグナル物質の同定も目指している。

★〒277-8562 千葉県柏市柏の葉5-1-5

❖ www.jinrui.ib.k.u-tokyo.ac.jp/kawamura-home.html ◆ kawamura@k.u-tokyo.ac.jp (河村)

東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系 認知行動科学大講座



進化的視点から、霊長類のこころと行動をさぐる

●教授 長谷川寿一 ●講師 齋藤慈子

進化心理学、行動生態学、発達心理学、比較認知科学を専門とし、分子遺伝学的手法や、ホルモン、脳波測定といった生理学的手法、認知行動実験などを取り入れて、DNAからこころまで、霊長類を含めた動物から人間までを幅広く扱っている。これまでの研究対象種は、チンパンジー、ニホンザル、オマキザル、コロブスなどである。

★〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

◆beep.c.u-tokyo.ac.jp/index_japanese/ ◆casaito@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp (齋藤)

東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻 人類科学大講座 人類生物学・遺伝学研究室



ヒトからサル・古典から現代・野外からラボ・面白いことを

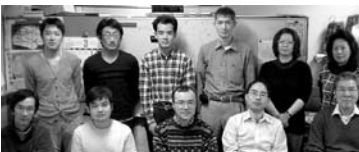
●准教授 石田貴文

ヒトと他の霊長類・脊椎動物との違い、人類の多様性と小進化といったことについてフィールドとラボをあわせた研究をおこなっている。そのため、小さいほうでは分子から、ウイルス、細胞、そして大きいほうでは集団まで扱うことになる。材料集めに国内外のフィールドへ、そして作業は実験室でという流れになる。

★〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

◆www.biol.s.u-tokyo.ac.jp/users/anthro/lab.html ◆tishida@biol.s.u-tokyo.ac.jp (石田)

東北大学大学院医学系研究科 生体機能学講座 生体システム生理学分野



認知行動の背景にある脳の動的システム原理に迫る

●教授 虫明元 ●講師 松坂義哉 ●助教 嶋啓節 ●助手 中島敏

ニホンザルに認知的な行動課題を訓練して、その大脳皮質からシングルユニット活動記録を行い、高次運動野、前頭前野の機能分化と統合機能の解明をテーマに研究している。高次機能の理解に迫るための行動課題としては、迷路課題、順序動作、数操作課題、時間課題などの認知課題をもちいて脳-身体-環境の複雑系として行動研究を進めている。

★〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

◆www.neurophysiology.med.tohoku.ac.jp/ ◆hmushiak@med.tohoku.ac.jp (虫明)

日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究所 野生動物学教室



ニホンザルと人間との共存のための科学をめざして

●教授 羽山伸一 ●助教 加藤卓也

深刻化しているニホンザルによる被害問題を解決するため、行動、生理、生態などを調査し、適切な個体群管理技術の研究をすすめている。おもな調査地は、青森県下北半島、福島県、群馬県、神奈川県などである。当教室では、同様の視点で、ツシマヤマネコなどの絶滅危惧種問題やアライグマなどの外来動物問題の解決にも取り組んでいる。

★〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

◆www.nvlu.ac.jp/wildlife/index.html/ ◆tkato@nvlu.ac.jp (加藤)

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科 共生博物部門〈兵庫県森林動物研究センター〉



軋轢を解消し、人とサルが共生できる社会を目指す！

●教授 室山泰之 ●准教授 坂田宏志、横山真弓

●講師 森光由樹、藤木大介 ●助教 鈴木克哉

行政機関と連携し、科学的な野生動物管理（ワイルドライフ・マネジメント）の推進のための研究を行っている。兵庫県では、ニホンザルによる被害が深刻化する一方、個体数が少なく地域絶滅も危惧されており、生態学・行動学・集団遺伝学・社会科学等の複合的なアプローチから、ニホンザルの軋轢軽減にむけた実践的研究を行っている。

★〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野940 ◆www.wmi-hyogo.jp/ ◆k_suzuki@wmi-hyogo.jp (鈴木)